



# 西武新宿線沿線 まちづくり通信



発行：平成24年1月 杉並区 都市整備部 都市計画課 鉄道立体担当

## 西武新宿線沿線の各駅周辺地区で 「まちづくり協議会」が発足しました



▲現在の旧瀬戸原上橋（上井草三丁目18番付近）

◀昭和35年頃の同場所

平成22年6月に地域の町会・自治会、商店街、小学校PTAの方々を中心に、下井草、井荻、上井草の各駅で「まちづくり勉強会」の活動が始まりました。

各勉強会では、まちの課題を改めて認識し、まちづくりを検討するにはより多くの地域の方々に参加していただける組織が必要であると考え、昨年春から「まちづくり協議会」設立に向けて準備を進めてきました。

そして昨年9月にそれぞれ設立総会を開催し、下井草、井荻、上井草の各駅周辺地区で「まちづくり協議会」が発足しました。

各駅周辺地区のまちづくり協議会では、概ね2年間を目途に「まちづくり構想」をまとめ、区へ提案することをひとつの目標として、検討に取り組んでいます。

区では、まちづくり協議会の活動を支援するとともに、協議会など地域の方々のご意見を伺いながら、西武新宿線沿線のまちづくりに取り組んでいきます。

# それぞれの協議会において設立総会が開催され、まちづくりの検討が始まりました。

## 上井草駅周辺地区まちづくり協議会

設立総会：平成23年9月17日(土)  
 総会会場：四宮小学校視聴覚室  
 審議案件：会則、役員・事業計画及び予算の選出、  
 事業計画及び予算  
 出席者数：55名(会員数 86名)  
 会長：鈴木 定雄



設立総会では、役員9名が選出され、運営委員9名と合わせ、計18名で協議会の運営を行うことになりました。また、当日は審議案件だけでなく、協議会活動に関する質問が活発に出されました。

主なものとして、以下のような質疑応答がありました。

- Q. 杉並区の助成金とはどのようなものですか？  
 A. 杉並区まちづくり条例に基づく協議会として区の認定を受け、まちづくり協議会の運営に必要な経費を杉並区から助成を受けるものです。
- Q. 早稲田通り南側が検討対象区域外になります。一緒にまちづくりを考えていきたいのですが？  
 A. 一体的なまちづくりが必要なところは一緒に考えていきます。
- Q. まちづくり構想作成に2年間もかけるのですか。もっとスピードを上げるべきではないでしょうか。  
 A. 井荻、下井草の協議会とも情報交換しながら、ある程度の時間をかけて構想をまとめていきたいと考えています。もし、緊急に対策が必要な課題があれば、その都度、区に要望していくことを検討します。
- ◆ 総会以後、運営委員会や定例会を開催しています。定例会では現況と課題の共通認識づくりが行われています。

## 下井草駅周辺地区まちづくり協議会

設立総会：平成23年9月3日(土)  
 総会会場：井草地域区民センター  
 審議案件：会則、役員・運営委員の選出、  
 事業計画及び予算  
 出席者数：37名(会員数 51名)  
 会長：矢島 謙一



当日は、役員7名と運営委員8名が選出され、計15名で協議会の運営を行うことになりました。なお、総会終了後、意見交換会が行われ、自己紹介とともに以下のような一言コメントがありました。

- 旧早稲田通りが狭い。交通安全に関心がある。○踏切で遊ぶ子供がいる。心配なので何とかしたい。
  - 大学生だが、商店街の活性化の検討をしたい。○魅力あるバラエティーに富んだ商店街が欲しい。
  - 福祉に関心がある。弱い人たちも豊かに生活できるようにしたい。
  - ふるさとになるまちづくりをしたい。○犬にもやさしいまちづくり。飼主マナーも含めて考えたい。
  - 商店街の道が狭く、車に危険を感じる。○昔あったような水路を復活させたい。
  - 夜、まちが暗い。子供の安全のために考えたい。・・・など
- ◆ 総会以後、運営委員会や定例会を開催し、「まち歩き」も行いました。「まち歩き」では下井草駅周辺の課題や、大切にしたいものなど、参加者各々が写真やメモをとりながら見て歩きました。今後、意見をテーマ別に分類し、まちづくりの検討に入る予定です。

\*会員数は協議会発足時の人数です。

(敬称は略しています)

\*区は平成23年10月、各協議会をまちづくり条例に基づく「まちづくり協議会」として認定しました。

## 井荻駅周辺地区まちづくり協議会

設立総会：平成23年9月17日(土)  
 総会会場：井草地域区民センター  
 審議案件：会則、役員・運営委員の選出、  
 事業計画及び予算  
 出席者数：59名(会員数 77名)  
 会長：井口 哲次郎



設立総会では、役員13名と運営委員14名が選出され、計27名で協議会の運営を行うこととなりました。また、当日は審議案件だけでなく、協議会活動に関する質問が活発に出されました。

主なものとして、以下のような質疑応答がありました。

- Q. 東京都や、鉄道、バス会社などに対して、働きかけができるのでしょうか。  
 A. 伝えたい意見がまとまれば、区を仲介するなどして伝えることが考えられます。
- Q. 協議会の主旨の中に、福祉やバリアフリーのまちづくりが含まれますか。  
 A. 福祉やバリアフリーはまちづくりの中で重要な要素です。今後、検討すべき課題です。
- Q. コンサルタントの派遣費用はどこから出ているのでしょうか。  
 A. コンサルタントの派遣費用は、区から「杉並区まちづくり条例」に基づき本協議会に派遣されているので、協議会の予算には含まれていません。
- ◆ 総会以後、運営委員会や全体会を開催しています。全体会では、各会員が「井荻をどんなまちにしていきたいか」をテーマに発表し、課題を複数の項目に分類するなど、活発な意見交換が行われています。

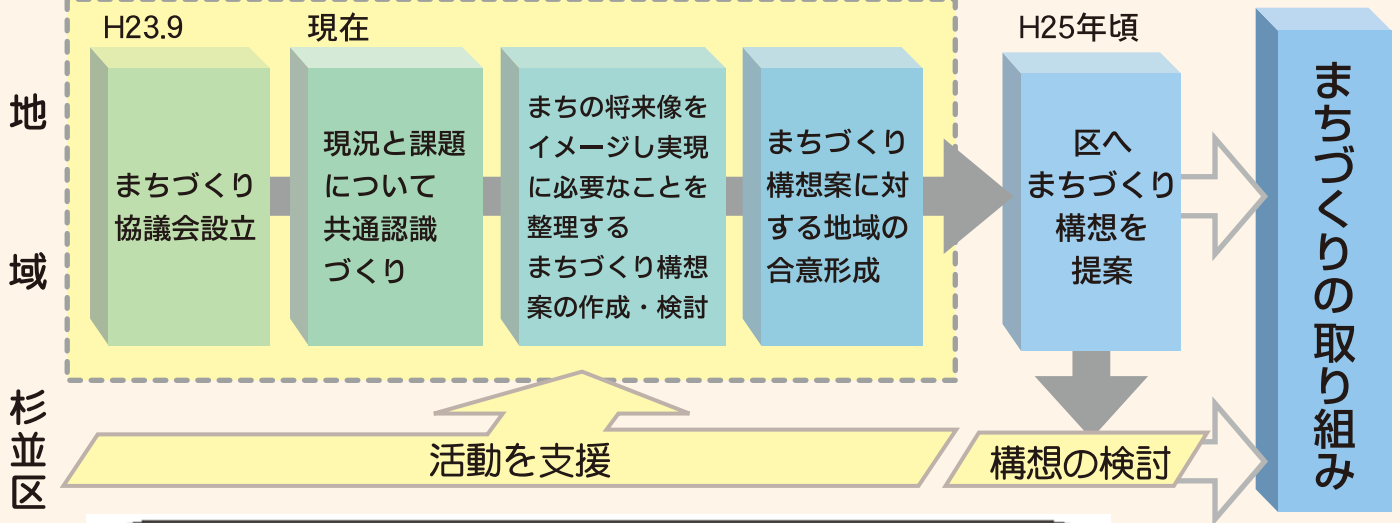
## 各協議会の検討範囲



協議会への入会はいつでも可能です。ご希望の方は、次ページの問い合わせ先にご連絡ください。該当する地域の協議会へお伝えします。



# 西武新宿線沿線まちづくりの進め方



## 沿線探訪 《井草川》～時は流れて～

井草川の水源は、現在の切通し公園①など、上井草4丁目辺りの湧水からの流れとされています。これらの流れは、現在の杉並工業高校敷地一帯に湿地帯をつくっていましたが、後に西山田圃にしやまたんぼと言われた広い水田に変えられ、その下流も上井草村、下井草村の灌漑用水として利用されていました。

また、井草川の水源地域辺りは、井草遺跡（縄文時代早期：約1万年前）があることで古くから知られ、その豊かな水環境は、古代人の生活を支えていたと思われます。

現在の井草川は、杉並独自のキャラクターの一つである「金太郎車止め（赤い腹掛けに車両通行止めのマーク）」が残る歩行者専用道路にその姿を変え、身近な道として周辺住民の通勤通学、散歩等に利用されています。

杉並工業高校の東側にある三谷公園②からは、水田風景が広がっていたかつての川沿いを歩くことができます。上瀬戸公園③、四宮森児童館④を経て、西武新宿線に出会いますが、ここで、線路の下に目を向けるとその昔にあった井草川の空間が垣間見え、川の痕跡を窺うことができます。線路の向こう側へ回り、再び歩き始めると、矢頭公園付近⑤に辿り着きます。この公園と井草森公園の間辺りには、通称「ほうろく山」と呼ばれた小高い所がありました。ほうろく鍋を逆さまに伏せたような形の台地の南半分に、黄菖蒲が咲く低湿地で湧水が見られたと「柿之木山物語」で述べられています。再び線路の南側に出て、環状八号線の東側に移動するとそこからは、小柴昌俊博士のノーベル賞受賞と名誉区民称号贈呈の記念事業「科学と自然の散歩みち」として整備され、妙正寺公園⑥まで続いています。

また、道路との辻には、かつてあった橋の名を刻んだ碑をいくつか目にします。その昔、地域の生活に関わった川の流れとともに、時の流れを感じさせます。

参考文献：『杉並の古道』『杉並区史跡散歩地図』杉並区教育委員会発行・「柿之木山物語」（『杉並郷土史会会報』119号）井口昭英著・『杉並の川と橋 杉並区立郷土博物館研究紀要別冊』杉並区立郷土博物館発行



1面、4面の白黒写真：杉並区立郷土博物館発行『レンズの記憶』図録より転載



科学と自然の散歩道



金太郎車止め



◀井草川(昭和35年頃・上井草三丁目18番付近)ザリガニなどをとって遊ぶ子どもたち

問い合わせ先：杉並区 都市整備部 都市計画課 鉄道立体担当  
TEL 03-3312-2111 内線 3504  
FAX 03-5307-0689